Victory

NO.7

令和５年１１月

宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校図書館

文化の薫りがしてきそうな爽やかな風が窓から入ってきます。11 月に入りました。この時期（10 月 27 日から 11 月９日まで）は、「全国秋の読書週間」になっています。今年の標語は「私のペースで しおりは進む」です。

図書館カウンターに標語のしおりを用意していますので、あなたの読書のお供にしてください。

「読書週間」の起こりについて以下に紹介します。

終戦の２年後の１９４７年（昭和２２年)、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせさらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもとに、第１回「読書週間」が開催されました。

第１回の「読書週間」は１１月１７日から２３日。これは１１月１６日から１週間にわたって開かれるアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」にならったものです。各地で講演会・図書に関する展示会が開かれ、その反響は大きなものでした。「一週間では惜しい」との声を受け、現在の１０月２７日から１１月９日（文化の日をはさんで２週間）となったのは、第２回からです。

それから７０年以上が過ぎ、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。その一方、物質生活の豊かさに比べ精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性は、ますます高まってきています。（参考：公益社団法人 読書推進運動協議会）

本を通してその世界はもちろん、著者との出会いも楽しみましょう。

読書週間に因んで

本校図書館でも、10 月 27 日から入り口近くに「図書委員があなたに贈る１冊」と題したコーナーを設置しています。手書きの POP で本を紹介。

まずは、POP を読んで、次に本を手にとって、そのままカウンターで貸出手続きを。

また、11 月 25 日創立 50 周年記念講演の講師・山中伸弥教授と iPS 細胞関連図書コーナー「SSH 読書週間：山中伸弥教授から広がる広げる読書」も設置しています。

11 月 6 日から合計 7 回朝の読書の時間を活用して iPS 細胞に関する動画 3 本と関連資料（図書・新聞・科学雑誌等から抜粋)を 4 種類､視聴及び読書します。なお、高 3 は読書のみです。

それに先立って、iPS 細胞関連図書と、人間としての山中伸弥教授のことがわかる図書を展示しています。朝読はもちろんですが、その前にあるいはその後からでも手に取ってみましょう。あわせて SSH 読書週間に因んだパスファインダー（本の道しるべ：あるテーマを調べるために役立つ資料や情報、検索手段を紹介した手引き）も配布します。興味のある本や情報にアクセスしましょう。

今回、コーナーを作成するにあたり関連図書を読みました。敷居の高かった科学の世界がグッと身近になりました。“iPS 細胞が万能たる所以”と“山中伸弥という素晴らしい人格者”に本を通して出会えたことは、引出が一つ増えた充足感があります。

ああ、早く講演を聴きたい！今から 25 日が楽しみです。

人の育ちを支える読書の力

11月1日（水）読売新聞25面（地方）に「第67回日本学生科学賞」の県代表6作品が選ばれ、うち高校の部（県知事賞・県教育長賞・読売新聞社賞）では本校の生徒3作品が選ばれました。後日、断続的に受賞作品に関する記事と受賞者のコメントが掲載されるようです。まずは、受賞されたみなさん本当におめでとうございます。

この記事を読み、すぐに思ったことは今回県知事賞を受賞した江藤路恵さん、そして、今年度「第36回国際地学オリンピック銀メダル」「第1回アースサイエンスフェスティバル東アジア大会金メダル」を受賞した松尾京佳さん、「物理チャレンジ2023銀賞」の甲斐健心さん、「生物学オリンピック2023銅賞」の森山裕美子さんに共通しているのが、図書館のヘビーユーザーつまり読書家だということです。このことは、先に紹介した山中伸弥教授はもちろんですが、ほぼすべての科学者が幅広い読書をしているということとつながります。（前号でもふれました）彼らに共通するのは、「読むこと」を楽しみ、大切にし、そこから先人の叡智にふれ、時に疑問を抱き、考え、新たなアイデアのタネを見出していく深い思考力です。単に科学系の本だけでなく、詩や小説などの文学を愛していることもその一つです。文学は、哲学・歴史･社会科学・自然科学・技術・産業・芸術そして言語のすべてが織り込まれた創造物です。現実にあることを架空の世界で表現することである意味私たちはそこで疑似体験することができます。その体験を通して、見えないもの、知り得ない世界と出会い、登場人物に感情移入し、寄り添い、また抗いそんな自分の感情を通して「人」という生き物について、自分について考えていくのだと思います。豊かな読書体験が、その人を育てていくのだと改めて感じるし、結果として賞につながる研究や作品が生まれるのでしょう。

さて、同日の読売新聞、宮日新聞に掲載された第28回若山牧水賞受賞者・歌人永田紅氏も細胞生物学の研究者（京都大学特任助教）です。受賞された歌集『いまニセンチ』は、自身の胎内にいた我が子の大きさを歌った作品。客観的視点とユーモラスな表現は秀逸です。読書は、私たちを育ててくれる大切な栄養素です。

図書館を活用した授業

高校1年（2クラス）、2年（3クラス）の保健、中3年（2クラス）感性の授業支援をしています。

高１：現代社会と健康

＊感染症と精神疾患についての関連資料提供と、情報収集する際の情報の読み取り方（小説との読みの違い）のレクチャー、関連サイトや資料例をあげたパスファインダーの提供を行いました。

高２：健康を支える環境づくり

＊環境問題全般、大気汚染、水質汚濁、地球温暖化、食品問題等テーマに関連した資料を提供し、1年同様情報の読み取り方をレクチャーしました。また、両学年ともWEBの活用に際しては厚生労働省のHPを紹介し、WEBを使用する時に気をつけたい点も説明しました。

中３：感性の時間

この時間は、一人ひとりが文学作品を創作します。図書館では、2週続けて次のアニマシオンを行いました。「聞き書き ○○さんの物語」～あるテーマを元に相手の話を聞き、それを元にその人の物語を創作する。「作家になって一枚の絵から100文字ストーリーを作ろう」～絵を見て想像したことを短いストーリーにしていく→グループでお互いの作品を共有→グループの推し作品を選ぶ→各グループの推し作品を読み、全体で→振り返りシートに事前事後の気持ちと感想を記す。次回の通信で、感想を紹介します。